

2016年12月8日

CPC：剖検症例検討会（北海道医師会認定生涯教育講座）

神経症状を主訴に受診し、精囊腫瘍が疑われた1例

司会：泌尿器科	加藤 隆一
臨床：臨床研修医	渡井 一輝
臨床研修医	土谷 円花
泌尿器科	池端 良紀
病理：臨床研修医	金澤 あゆみ
臨床研修医	小笠原 卓音
臨床検査科	小西 康宏
臨床検査科	今 信一郎

臨床経過

80歳男性。かかりつけ近医内科を定期受診した際、動作緩慢、喃語様の会話、易怒性が認められた。明らかな麻痺はなかったが、乗ってきた自家用車を運転できないという異常状態が認められ、同日当院脳神経外科へ紹介受診となった。

来院時の神経学的所見として、言語は疎通は可能だが、呂律不良があった。また、左上肢にバレー徴候陽性を認めた。血液検査では、WBC $5.71 \times 10^3/\text{mm}^3$ 、Hb 13.5 g/dL 、Plt $124 \times 10^3/\mu\text{L}$ 、BUN 52.3 mg/dL 、Cr 2.92 mg/dL 、UA 9.4 mg/dL 、CRP 10.95 mg/dL であった。脳のMRIで、右前頭葉、側脳室周囲に低信号の腫瘍像、その周囲に高信号域を認め、脳腫瘍疑いで即日入院となった。

入院後2日目の検査で、腫瘍マーカーは、Pro-GRPが 93.0 pg/mL 、sIL-2Rが 6630 U/mL と高値を示した。脳の腫瘍はMRI T1でガドリニウムで造影される腫瘍影だった。悪性リンパ腫、転移性腫瘍等が疑われ全身CTが施行された。全身CTでは、左肋骨と右胸壁に腫瘍を認め、傍大動脈、骨盤リンパ節腫大、精囊腫大、前立腺の不整を認めた。入院後9日目に、ガリウムシンチグラフィを施行したところ、脳、左肋骨、右後縦隔、腹部～骨盤にガリウム集積が認められ、悪性リンパ腫が疑われた。同日泌尿器科に転科となり、直腸診で前立腺は石様硬で、精囊は硬結腫大があった。PSAは 3.499 ng/mL だった。前立腺、精囊生検、膀胱鏡を施行する方針となった。入院後10日目に、検査が行われ、その結果精囊と膀胱は、びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫（DLBCL）、前立腺は、前立腺癌と、DLBCL疑いと病理診断された。

入院後13日目、脳浮腫の軽減のため、ステロイド、グリセリンを開始した。入院後15日目に、全身状態の悪

化、完治が望めないことからBSCの方針となった。その後徐々に血圧低下、呼吸状態悪化し、入院後21日目、永眠された。

病理解剖診断

1. びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫（血管内大型B細胞リンパ腫由来） 前立腺、精囊、膀胱、大脳、腸間膜、下垂体、両肺、肝、胆嚢、脾、胃、両副腎、胸壁、骨髄、両腎、心外膜、大動脈周囲リンパ節 2. 前立腺癌（2ヶ所 左葉 1.3 cm Gleason score $3+4=7$ with tertiary pattern 5 右葉 0.5 cm Gleason score $3+4=7$ ：転移なし 3. 大腸管状腺腫（2ヶ所、 3 mm 高異型度、 2 mm 低異型度） 4. 小腸リンパ管腫（ 1.5 mm ） 5. 気管支肺炎（右肺上葉） 6. 腎嚢胞 7. 左胸水（ 400 mL ）、右胸水（ 400 mL ）、腹水（ 100 mL ）

解剖は、死後2時間39分で施行された。

精囊の周囲に、肉眼的に白色調の腫瘍を認め、組織学的には、中型から大型の異型リンパ球の密集増生像を認めた。免疫染色では、異型リンパ球は、L26（CD20）、CD79aが陽性で、CD3、CD5は陰性だった。以上の所見から、DLBCLの像に相当すると考えられた。大脳の腫瘍も、同様のDLBCLの所見だった。しかし、精囊、大脳で血管内にもリンパ腫細胞が見られた。この所見は、上記した多数の臓器の血管内にも見られ、前立腺、精囊、膀胱、大脳、腸間膜、脾、副腎、骨髄、大動脈周囲リンパ節では、DLBCLの所見だったが、下垂体、両肺、肝、胆嚢、胃、胸壁、腎、心外膜では、異型リンパ球は血管内にとどまり、DLBCLの像は示していなかった。なお、血管内に異型リンパ球が存在することは、血管内皮を染めるCD34染色とリンパ管内皮を染めるD2-40染色で、CD34のみが陽性を示すことで確認した。以上の所見からは、原発は血管内大型B細胞リンパ腫で、血管内を通

して全身の臓器に浸潤し、一部の臓器では血管外にもリンパ腫細胞が広がり、腫瘤を形成し DLBCL の像を示し

たと考えられた。直接死因は、悪性リンパ腫の脳浸潤に伴う脳ヘルニアと考えられる。

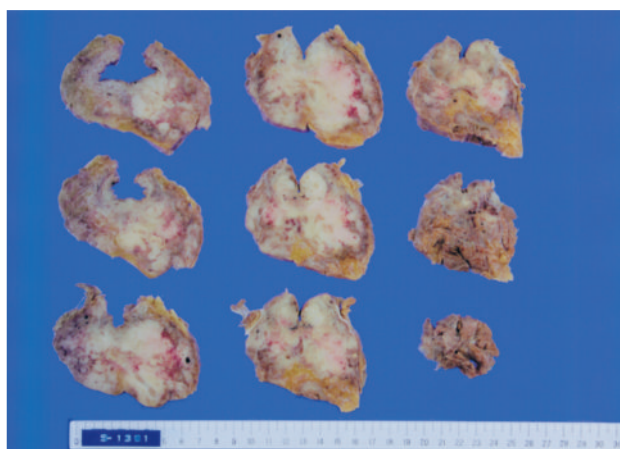


図1 前立腺、精嚢の断面
腫瘍の浸潤増生像を認める。

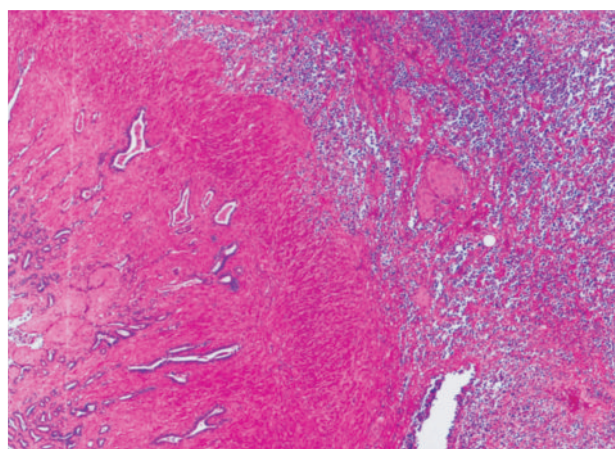


図2 精嚢の組織像
精嚢周囲と精嚢間質に、DLBCL の浸潤を認める。

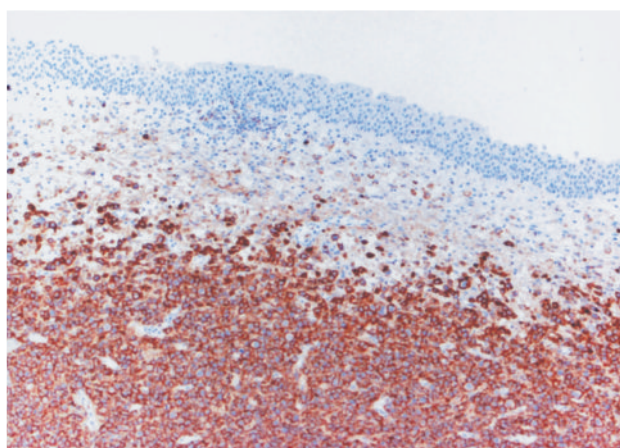


図3 膀胱浸潤部のL26 (CD20) の免疫染色像
リンパ腫細胞はL26 に陽性を示す。

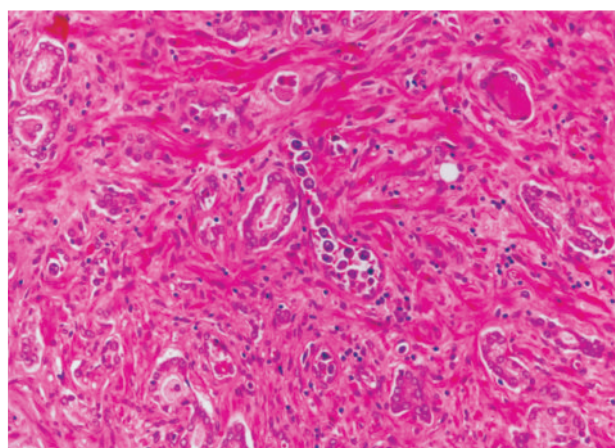


図4 前立腺癌の組織像
中央には、リンパ腫の血管内増生像も認める。

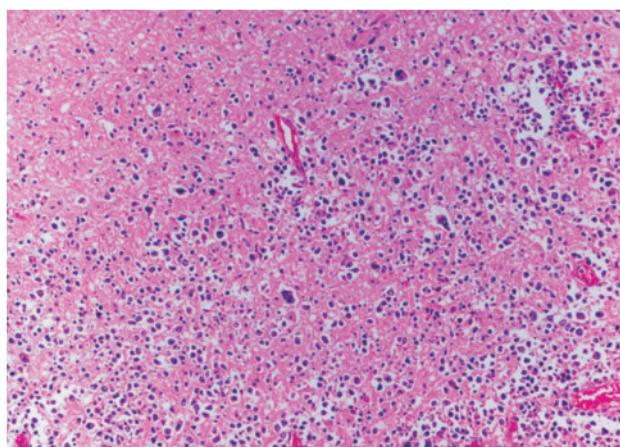


図5 脳の組織像
DLBCL の浸潤増生像を認める。

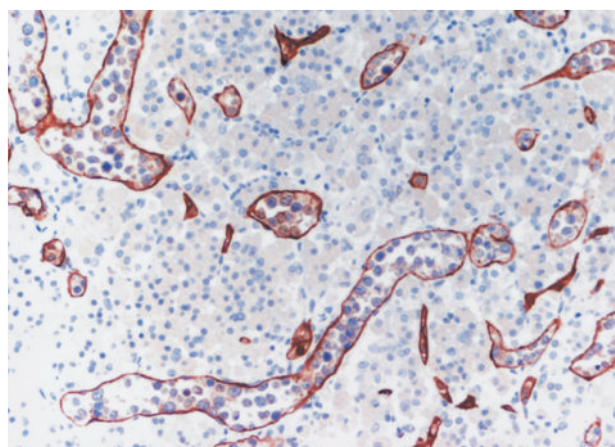


図6 下垂体のCD34の免疫染色像
下垂体にも血管内で増生するリンパ腫を認める。